

新潟地震の時は…

- ・地盤沈下で50cm位下がり、多くの家で土台上げをした
- ・現在は避難所として指定されていないが、旧二葉中学校を目指して避難した
- ・旧豊照小学校周辺は液状化して1m位の浸水が1週間位続いた

地域の社会特性

- ・信濃川からほど近い地域
- ・豊照地区全体が海拔0メートル地帯である
- ・地域のほとんどは、浸水すると水が長期に留まるおそれがある地域である
- ・地区の中心に一部河川遡上エリアが広がっており、その対応がカギとなる地域
- ・要援護者(高齢者)が多い(高齢化率37.0%)
【平成26年新潟市地区別防災カルテ参照】地域要援護者(高齢者)には、普段から逃げる方向や津波避難ビルなどを教えておき減災に努めることが重要
- ・避難の大きな方針は、避難者受け入れ地域に近い教育相談センターまで避難することを目標とし、その後、状況を見て旧二葉中学校グラウンドへ避難することが望まれる
- ・教育支援センターまで行けない場合は、近くの高く頑丈なビルに避難する
(小さいマンションは避難できるか分からないが、その状況下でできる最大限の行動をとる)

地域の被害特性

- ・液状化・地盤沈下により、避難経路が短時間で遮断されるおそれがあり、それによる被害が考えられる
- ・2011年の大雨時も浸水したが、地震と重なると被害が拡大するおそれがある
- ・地域の備蓄は旧豊照小体育館にあるが、浸水があると使えなくなるおそれがある
- ・住宅密集地域で古い建物が多く、発災時は建物が倒壊し、細い道路が使用できないおそれがある

各ブロックごとの具体的な避難方法

ブロック	特徴	期待される避難行動	避難目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤の目のように道が通っている ・高齢者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、教育相談センターへ避難する。 その後、状況を見て旧二葉中学校グラウンドへ 	第1目標：教育相談センター 最終目標：旧二葉中学校グラウンド
B	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化の心配が特に予想される地域 ・高層建築物が少ない ・火災が発生したら避難が困難 ・地区内に地域独自協定の避難施設がある ・高齢者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化が特に予想される地域なので、幾つかの避難ルートの検討が必要である ・要援護者は、地域独自協定の避難施設にまず避難 ・教育相談センターへ、さらに旧二葉中学校グラウンドへ避難 	第1目標：地域独自協定施設 第2目標：教育相談センター 最終目標：旧二葉中学校グラウンド
C	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防を津波が越えた場合、最初に被害を受ける ・付近の民間施設にも避難できるような体制をつくりたい ・西湊町通1ノ町住宅、西湊町通2ノ町住宅は他地区との兼ね合いで収容人数が心配 ・高齢者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者は、西湊町通1ノ町住宅、西湊町通2ノ町住宅へ避難 ・教育相談センターへ、さらに旧二葉中学校グラウンドへ避難 ・液状化地域をさけて避難することが求められる 	第1目標：西湊町通1ノ町住宅、西湊町通2ノ町住宅 第2目標：教育相談センター 最終目標：旧二葉中学校グラウンド